

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1474300199
法人名	医療法人社団 帰陽会
事業所名	グループホーム 四季の丘
訪問調査日	平成19年11月14日
評価確定日	平成19年12月18日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1474300199		
法人名	医療法人社団 帰陽会		
事業所名	グループホーム四季の丘		
所在地 (電話番号)	神奈川県南足柄市岩原697-1 (電話) 0465-71-0122		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成19年11月14日	評価確定日	平成19年12月18日

## 【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤10人, 非常勤8人, 常勤換算10人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての 階 ~ 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,800 円	その他の経費(月額)	31,000 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	(有)/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,100円			

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	10 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	68 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	丹羽病院、愛歯科クリニック
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは最寄り駅から徒歩10分で、周囲に畑や緑が残る高台に位置し、丹沢山系の眺望が心地良い。近くでミカン狩りも楽しめる。  
建物は平屋の2棟で、内部は玄関から段差が無く車いすでの移動も容易である。居室には洗面台と車いすでも使用できるトイレが整備されている。  
医療法人の経営で、医療体制が整備されており、利用者・家族には生活継続への安心感がある。ターミナルケアについて契約時に書類で説明し、家族と相談しながら対応していく体制がある。  
職員育成に配慮しており、外部研修には常勤、非常勤の職員とも参加している。安定した職員体制が利用者のADLの維持につながっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価結果はいつでも見られるように各ユニットの入り口に公表している。前回の評価の改善点である地域との連携に職員全員で取り組んで、地域との交流を深めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員が内容を検討し、記入した。改めて初心に戻る機会になっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>今年、運営推進会議は4回予定している。会議は市の職員、地域の自治会長、民生委員、理事長等で構成されている。会議では事業所側の報告と共に各委員との意見交換が行われている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>運営推進会議・家族会での意見交換や意見箱の設置などで家族の意見を聞き出すように努力している。食べ物の差し入れ等の家族の要望には率直に話し合って理解してもらっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>月に1度公民館に広報を取りに行き情報を得て、季節の地域行事に参加している。学童下校時の地域の見守り活動にも参加したことがある。近隣のパン工房(障害者施設)から週に1度パンを届けてもらっている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「グループホーム四季の丘は、その人らしいあたり前の生活ができるようお手伝いします」を理念としている。理念は職員の意見交換のなかで、自分ならこうしたい・こうして欲しいとの思いを込めて作成されたものである。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の介護支援で、職員が同じ目線で利用者に接遇する判断基準のよりどころとして、理念に沿って対応するように努力している。理念は各ユニットの入り口に分かりやすく掲示し、パンフレットにも記載されている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月に1度、公民館に広報を取りに行き情報を得て、季節の地域行事に参加している。学童下校時の地域の見守り活動にも参加したことがある。近隣のパン工房(障害者施設)から週に1度パンを届けてもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で内容を検討し、記入した。外部評価は各ユニットの入り口に置いて自由に閲覧できるようにしている。評価を通して少なかった地域との関わりに努力し、近隣の農家からブドウやミカンが届くなど交流が広がりつつある。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年、運営推進会議は4回予定している。会議は市の職員、地域の自治会長、民生委員、理事長等で構成されている。会議では事業所側の報告と共に、各委員との意見交換が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類の提出時等に、市の窓口へ状況報告や相談をしている。また、運営推進会議で意見や情報交換をして連携を図っている。グループホームのパンフレットも置かせてもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	翌月の行事予定表を利用者のメッセージ入りで家族に配布している。メッセージには「食べたい物」や「会いたい」等が記載されている。家族との面会時には近況を情報交換したり、出納帳にサインをもらっている。健康状態等に变化がある時は電話で報告している。行事の写真は行事ごとにファイルして玄関に置いている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会での意見交換や意見箱の設置などで家族の意見を聞き出すように努力している。食べ物の差し入れ等の家族の要望に対しては率直に話し合っ理解してもらっている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年、職員の異動はない。常勤が可能な方は常勤で採用する方針で、職員18名のうち10名が常勤職員と安定した勤務体制である。居室ごとに担当を決めて居室清掃やケアプラン作成等に対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報は職員に提供している。主催者や研修内容、職員のレベルを考慮してリーダーが研修参加者を決めている。研修参加者は研修報告書を提出し、ユニット会議で報告している。パートの職員も研修に参加する機会がある。受講記録は研修ノートに記載されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームは当事業所のみである。県のグループホーム協会に加入している。協会主催の研修会に参加して情報交換を行っている。近隣の事業所から医療連携体制加算等の問い合わせがあったときは情報提供をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族と時間をかけて話し合い、2~3回本人が事業所に来て他の利用者と一緒に飲みを飲むなど、事業所のなかで過ごしてもらい判断している。入居後、1ヶ月間本人の様子を見て、事業所の生活に馴染めないような場合は、家族とも相談しながら、他の施設を紹介する等の支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員を含めた共同生活のなかで、お茶を入れたり、食器類を洗ったりと利用者同士で役割分担の認識が出来て来ている。洗濯物を放置して利用者が気が付くのを見守るなど、利用者が介護される一方にならないように配慮している。掃除機を廊下に置いており、自分で掃除をする利用者もいる。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	明確に要望を伝える利用者もいる。希望などをはっきり言えない利用者には、家族からの情報、本人の言動や表情から思いを汲み取っている。また、買い物と一緒にいった時などに話を聞いたりしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時にアセスメントを実施し、利用者の希望や家族の意見を反映して個別の介護計画を作成し、本人または家族の署名をもらっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは原則として3ヶ月毎に行っている。期間にこだわらず、精神面も含めて、利用者の変化を見逃さないようにしている。変化があれば、「ユニット会議」で必要な関係者を交えて情報交換を行い、介護計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への受診に付き添ったり、介護保険の更新業務を支援したりしている。隣接するデイサービスが終了後、利用者に対応することもある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で主治医を決めている。病気の内容により以前からの主治医を利用している利用者もいる。2週間に1度、協力医療機関の医師の訪問診療がある。歯科医も2週間に1度訪問している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては、契約時に「ターミナルケア説明書」で家族に説明している。家族会でも方針を話している。協力医療機関の医師、家族、グループホームで繰り返し話し合いながら、対応を文書化して内容を共有している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉遣いには十分注意している。利用者の個別情報記録は事務所に施錠して保管している。また、職員同士はメールで利用者の個別情報を交換しないように指導している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は申し送りで利用者の状況を共有している。朝遅く起きる方、食事を自室で食べる方なども個別に見守りや支援をしている。居室に電話を設置したり、新聞を購読している利用者もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は献立から片付けまで利用者と一緒にしている。当日に、利用者からの希望や食材の状況に応じて献立を決めている。朝と昼の献立から夕食の内容を配慮している。調理を利用者に教わることもある。関連施設の管理栄養士に献立内容の指導を受けている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は利用者の希望を聞いて調整している。入浴の嫌いな方には「草むしりで汚れたから」等の声かけを職員が交代で行っている。また、相性の合う職員が、タイミングを見計らって声かけをして、入浴を支援することもある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	詩吟、パッチワーク、魚料理、朝に外の掃除をするなど、利用者個々の趣向に合わせて支援している。隣接する関連施設との合同夏祭りには屋台を出店している。誕生会の楽しみもある。また、ボランティアから手芸やダンスなどの指導を受けている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	桜やチューリップの見学は年間行事で行っている。職員と一緒に小田原へ電車で出かけたり、丹沢湖のイルミネーションを見学しにドライブしたりしている。車いすで家族と外出する時も職員が支援している。天気の良い日は利用者の希望に応じて近くに散歩に出ることもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠はしていない。出かけようとする利用者には、職員が、「今日は女将さん(管理者のこと)が居ないから」と利用者に話しながら見守るなど、状況に応じて職員が対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行っている。消防署の指導もある。夜間勤務時の訓練も交代で実施している。次回の訓練では炊き出しも行う計画である。火災通報装置も設置し、消防署につながっている。非常食は3日分備蓄している。100リットルの水も用意されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の食事摂取量だけでなく、残した物も確認している。必要な方には水分摂取量も記録している。利用者の顔色等を把握し、特に便秘には十分に配慮している。関連施設の管理栄養士に食事面でのアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットとも木の温もりを感じる共用空間で、居間と廊下には天窓を設け、採光や換気を工夫している。居間の壁には絵画やつるし飾りがあり、棚には犬などのぬいぐるみを置いている。散歩の時に摘んだ花を飾り季節感を出している。各ユニットで猫を飼って、職員、利用者が一緒に可愛がっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れたタンスや小机、大切にしている家族の写真や位牌などが持ち込まれ、利用者が過ごしやすい居住空間になっている。また、洗面台と、車いすでも利用できるトイレが設置されている。		



# 地域密着型サービス評価の自己評価票 GH四季の丘 そよかぜ棟

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		その人らしい当たり前の生活が出来るよう支援する。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		その人らしさとはどういう事かを話し合う。(症状か性格か我がままなのか、一次的か元からなのか)
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		ボランティアさんに認知症の勉強会をした。家族と個別の面談をして理解を得られるようにしている。来られた方は見学したり、お茶を飲んだりしている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		地域内の散歩をしたり、挨拶をわすれない。果実、野菜をいただいたりしている。朝、夕の犬の散歩者に犬を見せてもらうこともある。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		公民館の行事参加、作品展、運動会、発表会、夏祭りには招待している。広報を取りに行ったりお知らせを届けてもらったりする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	見学や相談は何時でも受けることはつたえている。家族の会等の参加する講演会には職員を必ず参加させる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	地域との交流には皆で取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議題を設けたりして意見交換をしている。		日々の生活のビデオ上映
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	何でも報告、相談をしている。役所の窓口対応がよかった。福祉に切り替わる人の相談にきちんと対応してくれた。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加している。包括支援センターとの連携が密になった。家族関係をよく考えて相談することもある。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員については自分の性格をよく知る。日常の関係を皆が理解しあう、夜間一人の時に気を付けるよう指導する。リーダー会議で検討し家族の相談と指導もする。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の意味を何度か話すこともある。契約書の内容を確認しあうこともある。退去時は得にたいせつに。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見や苦情については市の窓口相談したり、申し立てに付き添うこともある。ボランティアさんと話したり、一対一で外出したりする。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>変化があれば電話にて報告する。面会時には経過も報告している。行事の写真は玄関に置いている。小遣い帳にはサインをもらう。大きな買い物は家族と相談している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>大きな事は家族会で話し合い決める。細かい事は手紙や口頭で知らせている。意見なのか苦情なのかははっきりさせる。検討した結果は直接または手紙でしらせる。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>リーダー会議、ユニット会議、日々の仕事のなかでの意見を聞く。どうするか検討会を理事長にも参加してもらっている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>人数、時間、職員にいたるまで出来る限り調整している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>この1年間異動はなし。利用者の居室移動にも本人家族に説明し、介護にも問題がないか話し合う。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主催者や内容を考えて研修にでる。報告書、発表などで他職員に報告する。自主学習会もある。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問は少ないが管理者や計画作成者は電話連絡は取り合っている。		足柄上地域で集まろうと相談中
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	何でも話せる場作り、親睦会もある。個人的愚痴やうわさ話をせず、公の場で目的達成のためにどうすればよいか話し合うよう指導を受けている。時間内に仕事を終えるよう指導している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の特技を活かす係りなどを頼んでいる。当人同士の話し合いをしたり、精神的に苦しい時は一時休んだりする。顔の表情、声など何時も気にしている。健診は全員実施している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家庭環境、生い立ちだけでなく、表情や身の回り持ち物などからも知る。個別に話す機会をもつようになっている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	どのような生活をするのか説明する。支援できるか入居後の予測も説明する、必ず良くなる(落ち着く)とは限らないが経過ごとに相談することを約束する。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思いは傾聴する、本人の性格や経済状況などから他のサービスの情報を知らせる。困ったことは何時でも相談してくれるようつたえる。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ユニット、居室の場所、職員との関係まで話し合う。テーブル位置は空いている所に自分で座ってもらい様子をみる。フェースシートに書き込み情報を共有する。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に癒やされることが多い。笑い声が絶えない。楽しい生活だと思ふことが多い。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子を話し必要と思える事の手伝いをしてもらったり、一緒にしたりする。職員と一緒に外出し自宅で過ごすこともある。他の家族関係も支援している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	同居していた家族とは違う家族が契約者だったりする場合、現状を説明したり記録を読んでもらったりする。面会時の態度なども話し合う。家族間の問題や希望を聞くようにしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	そのように考えている。家族が嫌がる場合もある。宗教がらみ(悪徳商法)のこともあり注意が必要。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関係は、把握している。外出やイベントの時考慮する。何気なく職員が間に入る。年長者は敬うことが出来ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ボランティアに来ていただく、電話で近況を聞いたりしている。面会に行くこともある。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望は把握するようつとめている。いろいろ対応し表情などで判断することもある。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話の中からや家族の話などを聞いている。家族の協力で家系図など作ってみる。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別対応でやるべきというところにきている。出来ないではなくどうすれば出来るかを考えるようにしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	申し送りごとに問題があれば話し合ったりプランを確認している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間より、変化を見逃さない。困ると感じる事があればプランが合っていないということで話し合う。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランを基本にし気づきや工夫を判りやすく書く。家族に喜んでもらえる書き方、(汚したでなく頑張ったけど間に合わなかった)等		記録用紙の見直し漠然とした記録でなく、プラン、生活、健康など用途に合った記録が出来るようにしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の開業医で健康診断をうける。都合の付かない家族には職員が代わりにつく。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	散歩の付き添いに来てもらう。学童の下校安全の金時隊に参加している。必要な協力は何時でもする。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅や訪問の出入りはある。自費サービス活用の説明は出来るようにしている。申し込みの方に包括や保健福祉課を紹介することがある。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要のある人、かかわってきた人については続けている。相互に交流をしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要な医療機関には対応している。医師からも確認している。協力医療機関と、緊急時以外にも支援してきたが、健診は家族にお願いする方針。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門外来の受診は継続の人はそのまま、主治医からの紹介また医師同士の交流もある。生活記録を送ることもある。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師による健康管理、訪問看護ステーションとの協定あり。夜間も看護師、医師との連絡はほぼつく。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院しないよう日々観察する、医師、連携室や家族と話し合い1日でも早く受け入れている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時、その後も個別に確認し合い調整している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師からどのような経過をたどるかの説明も聞いている。不安はあるが皆で取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時は本人に部屋を見てもらい職員とも会い、安心できるようにする。他施設には細かく情報をいれる。本人の思い入れなども。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>気遣いはしているが大きな声になる時がある。。</p>	<p>もう少し言葉遣いを良くしたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>居室を訪ねたり、1対1で外出したり、相性の良い職員が係ったりしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>出来る限り合わせている。出来ない時はきちんと説明したり、歩み寄っている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>時々持ち物を一緒に点検したり、季節ごとのアドバイスをしたり、誉めたりしている。行きつけの店へ家族と行く人もいる。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>台所はみんなで廻している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一部食事制限のある人もいるが医師から自然に近い形で言ってもらっている。全員同じ物でなく好きな物を選んで食べることもある。食べたい物を食べに出かける時もある。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	紙パンツをはいていた人も外して対応してみている。多少汚れてもその後どうするかに対応を大切にしている。お風呂と言われればその様に支援する。夜も可能		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自分から入りたいと言えるような声かけをするようにしている。回数が少ない人もいるがカレンダーに印を付けていたりしているので無理強いはいしない。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室の使い方がうまくいっている。医療面から横になってもらうよう勧める時もある。薬は出来るだけ使わない方針、日光浴や退屈しない日課にする。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	魚料理が出来る人、手芸が楽しみな人、花の好きな人、散歩に行きたい人等場面を作るようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自動販売機、路地野菜、スーパーなど自分で払う機会をもてるようにしている。身の回りの物は自分で選ぶようにしている。サイフは持つことで安心する。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望で出かけたり、役所に行く時も声かけをして誰かと一緒に行くようにしている。車椅子で庭散歩、ドライブ等も行う。昔馴染みの店や住んでいた所へ行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	会話の中で思いいれの場所が判ると家族に相談し実現できるよう努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の心配をしたりする時など電話かけてみましょうかと勧める。暑中見舞いや年賀状も希望を聞いている。力かって来た電話は子機で自室へ届ける。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者には入居者が茶菓を出せるよう支援する。本人には馴染みの人でも家族が嫌がられる場合もあるので、基本的には家族の許可のある方にしている。お帰りの時、何かありますかと聞くようにしている。面会時間は出来ない時間帯はない。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉も含めて拘束はしない約束。安定を保ちながら安全の為一部(階段)と夜間は施錠している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開放している、出かける人にはいろんな方法で見守る。対応の良し悪しで帰りたくなることもある為、ささいな声かけにも気をつけ安心出来る場所作りをするように心がけている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守れる位置、音の聞こえる位置を確認している。台所に立つ時も背中向きにならないよう注意している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	配慮している。またこうすれば出来る、見守りが必要など情報をあつめている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	行方不明については家族と話し合いをもっている。日々気をつけるようにしている。ヒヤリハットや事故届けを書き情報を共有する。		個別に事前予測が立つようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者の状態によってはその都度お互いに確認しあっている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会との相互協力を進めている。地域の防災マイクが使えるように頼む。備蓄品は3日分確保。大災害の時どうなるかわからない。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会での全体の話し、個別については何度も話し合う家族もいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルサインだけでなく顔色、食欲、表情などからよみとる。脱水、便秘は特に大切。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	排泄確認を要する人は状況を看護師及び医師に報告し調整する薬局からの説明書を手元に置く。。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事内容、運動の努力はしている。摘便、浣腸は血圧変動にも繋がるので控えているが、高齢の人や薬によっては下剤を服用している。		個別の運動が継続的に出来るとよい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	心がけてはいるが、全員きちんと3回までは出来ない。夜は特に気をつけている。声かけ、ブラシを出して置く、一緒に磨くなどはしている。		口腔衛生管理をしてもらいたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量だけでなく、残した物を確認次回につなげる。体調に合わせお粥やスープ高カロリー食など用意する。協力病院、施設の管理栄養士のアドバイスはうける。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人としての対策を聞いている。流行時にはその都度指導をうける。面会者にも協力してもらう。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫に古い物が残らないよう週1回は点検する。火を通して食べる。食べる直前に作る。洗い方に注意している。消毒、殺菌は夜間にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	地域との話し合いで建てている。植木の剪定や、草抜きは定期に行っている。家族が持ち込んだ植木鉢もある。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわりや新入居者のいる時など模様替えをする。施設のようにならない工夫をしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの場所にいる。事務所の椅子に座ることもある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	購入した物が多い。思い入れのある物を自宅へ取りに行くこともある。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気システム。出来るだけ窓をあけている。室温と共に衣服にも気をつけている。温度調節を間違えることがあり個別に対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物や布団干しは庭まで出る人ベランダに干す人ハンガーに掛けるだけの人等個人で出来るようにしている。手を出しすぎないで見守る。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗濯機に番号を入れている。粉石けんのスプーンの大きさを調節している。部屋に目印をつけている人がいる。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	隣との通路は布団干し場、花の水やり、金魚、猫の餌やり、野菜の収穫、すずかぜへ借り物やおすそ分けに行き来している。		ベンチを庭へ置きたい。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ターミナルに対して話し合いを続け家族も職員も納得いくようにすすめる。家族との信頼関係を大切にしている。



地域密着型サービス評価の自己評価票 GH四季の丘 すずかぜ棟

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		職員だけでなく、本人、家族、地域共に、理念を共有していきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		運営推進委員会等で説明はしているが、もっと気軽に触れ合う機会が持て、老後安心して住める地域になれるよう、努力したい
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症高齢者のシニアキャンプに参加。地域のボランティアの方への認知症ケアのサポートをした。 施設の広報は、市役所、自治会へと配布し介護保険のこと、ホームでの過ごし方など周知していただこうとしている。		運営推進委員会では講義や事例報告
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は、全員が内容検討し、記入した。 以前の評価で課題となった地域との関わりを、この一年計画を立て努力してきた。少しずつだが、近所の人と接点を持っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価は、公表し良い点、改善点を話し合っている。 家族からの、面会簿に対する意見が聞け、改善出来た。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議以外でも、不明な点や、トラブルを未然に防げるよう、指導受けている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	年に数回の成年後見制度への研修へ、職員が入れ替わり参加している。ケアの方向性で家族間で意見が分かれる際、制度について		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1度の会議で、虐待の可能性について議題を持っている。 職員の言動が虐待に値しないか、職員間で話し合う。		虐待については、家族を交えての話し合いを持ちたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>新規契約者は、契約期間を3ヶ月とし、その間に意見、要望、出来ること等聞き、再度契約するかを選択してもらっている。</p> <p>料金形態の変更等は、家族会を開き、積算根拠を出し説明している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情の申し立て時は、外部機関にでも付き添えるよう支援する。</p> <p>必要に応じて、本人の意見を代弁した。</p> <p>面会時家族へ不満が言い易いよう、配慮することもある。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月行事予定表を本人のメッセージ入りで配布している。</p> <p>面会時には、近況を話し、本人の生活がより良くなるよう物品、外出、面会の程度等相談し、出納帳の確認を促している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置しご意見を問える環境にしている</p> <p>運営推進会議で家族遠慮なく言えるよう、声掛けするようにしている</p>	<p>家族が遠慮なく意見の交換が出来るよう、雰囲気作りや問いかけをしているつもりだが、遠慮している家族もいるように思う。</p> <p>建前で無く、本音で家族、入居者支援が出来るよう、意見が言える関係を築きたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>意見箱や、提案ノート、ユニット会議で発言の場を設け、ケースによっては、匿名でのアンケートを実施している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>その日の行事や、イベント、緊急時に合わせ、勤務時間と体制を変更することもある。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>この1年移動は無い。あった際は、入居者のダメージを考え、早期に安心できるようにする。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修の情報をくれ、選択して受けられる機会も頂いている。 常勤者のみでなく、パートも研修へ参加する機会がある。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に加入し研修等へ参加している。 他事業所と、職員の交換研修を行った事はある。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	何でも話せる場作り、親睦会もある。個人的愚痴やうわさ話をせず、公の場で目的達成のためにどうすればよいか話し合うよう指導を受けている。時間内に仕事を終えるよう指導している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の特技を活かす係りなどを頼んでいる。当人同士の話し合いをしたり、精神的に苦しい時は一時休んだりする。顔の表情、声など何時も気にしている。健診は全員実施している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期は、本人との信頼関係の構築が、状態安定への一番と捕らえ、職員、入居者の紹介から設備、過ごし方等その都度話せるようにしている。居室で、職員と二人で話せる機会も作り、他入居者と良い関係が取れるよう食席や、外出の支援している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時は本人が、GHでの生活が適しているかの評価を、一緒に行い、必要に応じ他事業所の情報、地域福祉情報を提供している。 利用に関し、家族のニーズ、本人のニーズを捕らえ、在宅復帰からターミナルまで視野に入れ話し合いの機会を持つよう努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時は本人が、GHでの生活が適しているかの評価を、一緒に行い、必要に応じ他事業所の情報、地域福祉情報を提供している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の施設認知の度合いで、入居前に馴染みの関係が出来るよう紹介したり、印象に残る場所や人間関係を築くように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も含めた共同生活というの自覚が持てるよう援助し、個々の活躍できる場面を持ち、入居者同士で役割分担の認識が出来てきた。 介護する人される人でなく、お互いが同等の立場で接し、時にはプライベートな話で、泣き笑いしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来所時は、個々の状態変化を話し、本人の現状を認識してもらい共に、本人の暮らしが安定するよう話し合っている。 施設の意見を強要するのではなく、本人、家族の生活背景を視野に入れ選択できるよう援助している。		本人と家族が、共同作業できる場面や、家族が活躍している場面に接する機会を持ってみたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	個々の家族と本人の関係を踏まえ、面会の頻度の声掛けや、行事への共同参加、外出、外泊などしている。 家族と外出時、職員が手伝ったり、自宅へ職員が連れて行くなど、の援助をした。 キーパーソンとその他の家族の関係を周知し、その改善へ向けて努力している		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話での連絡を取り合っていた方は、居室に電話を引き、番号も同じになるよう手続きし、引き続き連絡を取り合えるようにした。 今まで通っていた場所へ、外出したり、参加していた行事に参加の付き添い等した。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個人の性格、能力を把握し、協力して共同作業できるよう援助している。職員としてだけでなく、共同生活の一員として接し意見を言うことで、他入居者同士で場が落ち着いたり、援助しあう場面が見られている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後もボランティアとして活動して下さったり、入居者さんと面会に行く、家族の相談にのるなど連絡を取り合うケースもあった。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自立支援と抑制の関係を考えながら、本人の言動に注意し支援している。また、家族からも情報を頂き、本人の意思と家族の思いが同じ方向を向くよう援助している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生まれから職業、家族関係、交友関係、趣味など、出来るだけ本人の周りの情報を得よう、努力している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の大まかな過ごし方と、特記事項を記入する形で把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の思いや、気持ちを大事にするように作っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人に変化が合った際は、その都度対応を変えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送りで共有し、必要に合わせカンファレンスの時間を持ち介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の健康診断制度を使ったり、受診の付き添いを代行したり、介護保険の更新を本人がする援助をしたりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	学校の教育学習の研修を受け入れている。公民館で行われる行事に、参加。それ以外に、公民館へ、便りを取りに行ったり、図書館へ、本やCDを借りに行ったりしている。警察とは、消防とは、必要時に相談している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ、自費のサービスや、一次的に介護保険サービスを使ったケースもある。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じ包括支援センターに相談している。権利擁護は、入居すると契約終了するケースが多いが、独居で身寄りの無い方の行く末を、本人含め相談し決めた。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望で、主治医は決めている。また、施設協力病院の先生の指示で、他医療機関にかかる際も、選択できるように支援している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>専門外来の受診は継続の人はそのまま、主治医からの紹介また医師同士の交流もある。生活記録を送ることもある。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護師が常勤で働いている。 訪問看護ステーションと、協定を結び、必要に応じ協力してもらえるようにしている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時混乱が少なくなるよう、細かな情報を提供したり、面会に行き対応している。 長期の入院は、本人の認知症の進行に大きくかかわる為、早期に退院できるよう、連携室や先生と話し合っている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>大まかな希望は、入居時に家族に決めてもらい、それに添って、全員で話し合える時間をとり共有できるようにしている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>施設で出来ない医療については、書面で家族へ渡し、悔いの無いような過ごし方を、本人、家族、親類等が出来るよう支援している。 終末期に出来ることを、職員、家族で話し合い、泊まることや面会時間、家族のみで過ごせる空間の援助をした。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人の生活空間や、リズムに配慮し、本人の信頼できる方の援助を得ながら、ダメージが最小になるよう努めている。 他施設へ移った際は、家族の許可をもらい情報提供書を出し、その後も相談に乗り、環境の変化に慣れることの手助けをするようにしている。</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人のみ聞こえるよう話すか、大勢の会話から気づくよう話すかなど、個々に合わせて対応している。</p> <p>原則、本人の病状、今後のこと等主介護者のみに話すようにし、他家族や、外来者へは個人情報保護法について、説明するようにしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常では、食事の献立や入浴、外出の意思など本人が、選択できる状況を作るようには、している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個々に合わせ、遅く起きる方や、食事を自室で食べる方、毎日のように入浴する方や、洗濯が好きな方等各々の生活リズムは、決まってきたり。掃除や、清潔面で自主的に行おうとする人が少なく、代行や、日にちを大体決め行うことがある。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>なじみの美容院に連れて行くことや、化粧している入居者の買い物と一緒にいき、支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員は、入居者と献立から、作り、片付けにいたるまで、一緒に行い同じものを食し、感想を言い合ったり、好き嫌いの情報や、食事能力の変化を感じるようにしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒を飲んでいた方はいた。おやつや飲み物等、自己管理可能な状況を作るよう支援し、自己管理できない方には、預かり出すようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	気持ちの良い排泄を目指し、個々にあった排泄物品、声掛け、気づかせ方をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、希望を聞き援助している。毎日、夕方入る方もいれば、午前にも入れるよう準備している。入浴が嫌いな方には、数人で交代して話しかけたりしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室の鍵や、電気、テレビなど、個々に合わせ本人が安心出来る空間作りをしようと努力している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の残された能力の発見に努め、季節に合わせて広報や新聞を見ての外出へ出掛けたり、馴染みの場所へ買い物へ行くなど個々の趣向に合わせて支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる分は、持ち個々の出来る範囲で買い物している。 外出先だけでなく、パン屋さんが来たときや、敷地内のみかん売り場自販機など、つかえる状況は作り、社会的金銭管理面で維持できるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に、外出の機会を持ち、車椅子の方でも希望時には、出掛けられるよう支援している。皆、日に数分でも屋外へ出で、日光浴を出来る時間を持つように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	チラシの券から温泉へ行きたい話しになり、一緒に行ったり、電車での移動、野球の応援、海等様々などところに行った。相談から、定期的に家族と旅行に出掛ける方できた。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に電話を引いている方は、自室でかける。公衆電話を利用する方もいる。自分で番号が押せなかったり、聞き取りにくいときは、間に入り通訳することもある。 家族、友人への年賀状を出したり、頂いたりしている。月に1度は、家族へ渡す紙へ、自筆でメッセージを入れている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者が、自主的にお茶を入れたり、他利用者の訪問者と仲良くなったりしている。個室でも、リビングでも他入居者が平気なら過ごすのは構わないようにしている。面会時間は、特に常識の範囲であれば受け、緊急時等は、家族の意向に沿えるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉も含めて拘束はしない約束。安定を保ちながら安全の為一部(階段)と夜間は施錠している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者を外に出れないように鍵をかけることは無い。理由無く出かけようとする事は無い為、理由に合わせ安心し解消する対応をしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の生活リズムを把握し、所在把握に努めている。夜間に限り、本人の安否を確認する為に鍵を開けさせてもらい、部屋に入ることも有る。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の能力に合わせ、物品を使用してもらっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告書を会議で話し合い、再発防止へ努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会を行い勉強し、適宜看護師にも指導してもらえるようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に訓練をしている。 地域とも、防災体制について話をしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては、契約時、更新時、面会時に話している。 安全と抑制について説明し、本人本位の自立支援が出来るようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全体で定期的にバイタル測定し、その他個々に合わせ、バイタル測定している。数字上の異常だけでなく、精神的身体的異常を見落とさないよう努め、業務日誌や、申し送りで情報の共有をしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書で確認し、診察時に状況を説明している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲み物、食べ物を工夫し、運動や腹部マッサージと、取り込んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの必要性を説明し、毎食後に行うようになってもらえるよう支援している。週に1度は、ポリデントを実施できるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、各自チェックし、少ない方には、別に捕食や水分摂取のチェックをしている。食事内容は本人の嗜好や、口腔機能を考慮し、作るようにしている。協力病院の管理栄養士に栄養相談にのってもらっている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作り、随時更新している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	共有のものは、定期的に消毒、除菌、漂白などしている。賞味期限は、切れる前に食べられるよう、書き出し申し送っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	植木鉢を置き入居者が世話している。鍵がかかっているわけではなく、割に庭で散歩している方も多く、声をかけにくくはないと思う。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光の調整や、壁の様子など、入居者主体で考えている。散歩へ行き、撮ってきた花等飾り、季節感をだしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	洗濯場での会話や、食堂の席等思い思いに過ごせるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの家具を持ってきてもらい、場所、使用方法が分かり、混乱を防ぐようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入れ替えは、入居者の日課となっていて、朝開けている。その他24H換気システムをつけている。温度については、共有部分、個室は、湿温度計で確認し、エアコンよりも、衣類等で調節できるよう支援している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食席は、個々に高さ、背もたれ、回転等、使いやすいよう援助している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	どう工夫すれば、わかるかを皆で検討し、良い方法を施行し、評価している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭での作物を料理に使用したり、草むしり、掃除を一緒にやったりし、日常的に室内だけでなく、庭でも自分の時間が持てるよう支援している。車椅子でも散歩できるようにしている。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

本人と本人を囲むすべての人が満足した終末期を送ること